

よみがえれ、労働運動 7 関東ブロック

第

回

家計簿は泣いている

— 国労甲府闘争からまなぶ —

強制配転への怒り家族ぐるみで

夫を支えられるのは家族なんだというように、自分自身の中で夫に対する気持ちが出て来たのは、やはり合理化で国鉄が分割民営化されJRになったときだったと思います。

私は、まさか夫がこんなに組合運動をしていると思いませんでした。でも国労甲府支部執行委員をしているころ、国労家族会というのがありまして、家族会の役員を執行委員の妻たちが中心になって盛り上げて作り直そうという運動が始まったんです。最初は家族ぐ

るみの旅行とかでおばあさんや子どもも連れて、家族ぐるみの交流を行いました。

そして、二〜三年したら家族会への準備段階に入り、子どもたちを連れながら月に一回位、料理教室や手芸などの集まりに出て、組合の執行委員長や書記長の「今、国労は大変な時期で闘う以外ない」という話を色々聞きました。そういう中で家族会の役員も東京へ出て交流したりしながら、やつぱり、夫を支えるのは、家族しかないんだ。妻や子どもが、夫を一生懸命応援

すれば、夫も頑張るんだとなって、家族会の活動も、選挙の応援からハンガーストラキの支度、統一デモ等々というように色々な取り組みに参加するようになりました。

いつの間にか夫のそばにいて、国労の応援をしているという感じになっていました。夫に向けていた、組合運動で家にいない不満や怒りが、知らぬ間に「夫は何も悪いことはしていないんだ。JR当局が不当に国労に対する嫌がらせをしているんだ」と思えるようになってきました。

◆みんなの学習講座



春闘総決起集会に参加する前の職場の話し合い

今までは夏とか冬の手当から5%カットだったんですけども、去年の冬は10%ものカットだったんです。さらに出勤停止が夫の場合、三日あったんです。一週間の人もおりました。出勤停止というのは、一日一万余千円引かれます。一週間の人は10万円位引

かれ手取りは、半減してしまいます。

でも、ここで引いてはられない。

やっぱり、自分たち人間が生きていくためには、自分たちの権利というものを主張しなくてはいけないのではないかと。私たちも、分会の統一行動の取り組みとして、家族も抗議の意志を表そうというので抗議文を家族で書いて送り付けました。息子も今回の判決（98年5月28日、東京地裁はJRの主張を認め、中労委救済を主面的に取り消した。国労敗訴の判決）には「お父さん、残念だったね。でも頑張るしかないね」と声にしてくださいました。夫には何よりの激励だったと思いますし、これからも頑張つてほしいと思います。（学習資料「労働運動の再生」より）

これは分割民営化で、八王子に強制配転させられた組合員家族の怒りの声です。国労甲府支部の家族会は、分割民営化で国労攻撃が激しくなる中、三

池主婦会から田中松枝さんを呼んで、三池の家族ぐるみに学びました。そして、59・2貨物合理化に対して、400日間に及ぶ強制配転反対闘争を夫と共に闘い抜きました。

国労甲府闘争とは何なのか

では、国労甲府闘争とはどういう闘いだったでしょうか。

元国労本部書記長の宮坂要さんは「国労甲府運動史」の中で次のように語っています。1971年の反「マル生」闘争から「59・2貨物全廃合理化」との闘いに至る「甲府闘争」は現在の国鉄闘争の原点ともいえるものである。国鉄当局の「マル生」（国鉄生産性運動）攻撃によって、国労甲府の組織は壊滅的打撃を受けた。当時甲府駅分会を中心に「学習と交流」「職場闘争」を基本に据えて、1年余で組織を回復し、その組織の力を基盤に、「59・2貨物全廃合理化」と真正面

からたたかった。この闘いは結局行革の嵐の中で貨物取扱全廃となるのだが、その後一年余にわたって展開された「遠隔地配転拒否」の闘いは、関東規模の反行革統一闘争へと発展した。これら一連の闘いは全国の仲間たちから

「甲府闘争」と呼ばれ、今日の国鉄闘争へ連続した闘いとなっている。国鉄の「分割民営化」を強引に進めようとした国鉄当局が、職場闘争を抑え込み、闘う労働運動を圧殺することを通じて、行革の目玉とすべき国鉄の「分割・民営化」を強行しようとしたのである（「国労甲府運動史」より）。

また、長年国労甲府と学習・交流を続けておられた元三池労組書記長の灰原茂雄さんは「このように、国労甲府の仲間たちは、今次国鉄闘争の第一線にあつて、すでに立派な中間総括を行っている、職場を、汚れ切った土足で踏み荒らされるといふ先制攻撃を自若としてハネ返し、大衆闘争の実践の中から闘

いの展望をしたたかに突き出しているのである」と、三塚委員会の立ち入り調査攻撃に対しての国労甲府の闘いについて述べています。

宮坂要さんと

新藤薫靖さんに聞く

ここで当時、甲府支部委員長と書記長をされて陣頭指揮を執られていた、宮坂要さんと新藤薫靖さんに国労甲府闘争を振り返っていただきます。

三塚委員会の「立ち入り調査」攻撃

司会Ⅱ 82年3月18日に自民党三塚委員会の「立ち入り調査」攻撃を受けましたが、「それを動揺することなく一蹴した、そのことで内外に国労甲府の存在を知らしめた」と灰原さんは言っています。当時を思い出してどのような状況でしたか？

新藤Ⅱ 第二臨調の動向に呼应した国労攻撃が激化する中、協約違反・慣習の

一方的破棄を当局が強行し、現場の分会役員は、休日のほとんどを組合活動に費やし、自宅で家族と夕食を共にできない状態でした。また、汚染作業に従事する組合員の身体清掃や超過勤務を「業務命令」で従わせようとする状況となっていました。

そして、3月18日を迎えて、中道勢力を巻き込み、マスコミを駆使して自民党国鉄基本問題調査会・小委員会から甲府駅と大月保線区に立ち入り調査を強行したのです。私たちは、前もって予想していたので、冷静に対応し、職場も団結して耐える力を増しました。宮坂Ⅱ 自民党三塚委員会に甲府駅が注目されたんですね。なぜ、甲府駅に注目したのか。それは、甲府駅は三池闘争に学んで職場闘争が盛んであったからです。

三池から学ぶ

司会Ⅱ 国労甲府は三池から学んだと言



1.25 山梨県反行革総決起集会に1200名の仲間が結集

甲府駅分会機関紙「夜明け」300号記念号(1985.2.15)より

われますが、それはどういうことですか？

宮坂Ⅱ甲府駅は、旅客と共に、貨物も大量に取り扱っていました。貨物職場

(貨車の入れ替え作業)の詰所が東と西の二つあり職場闘争が盛んでした。

貨物職場は貨物を載せた貨車の取り扱いが中心的な作業であったから安全な作業のために職制(駅長、助役)との

対立が日常的にありましたね。貨車の入れ替え作業は人身事故を伴い、時には命の危険にさらされる事故が起きるんです。

「作業の安全」を守るために職場の攻防が厳しさを増し、その闘いは、三池の闘いに学ぶことが必要となりました。そして、生命を守るために職場闘争が続き、生命と権利の闘いを通して生活実態からの賃金要求にも反映されていきました。それは「家計簿は泣いている」に示されているように、家族ぐるみでの闘いであったのです。

こうして、甲府闘争は、職場抵抗闘争と家族ぐるみ、地域ぐるみの闘いとして発展してきました。

家族ぐるみの反行革のうねり

司会Ⅱ夜明け300号に「国鉄闘争を軸に企業を越えた家族ぐるみの反行革のうねり」とあります。85年1月25日の遠隔地強制配転反対総決起集会の様式です。この集会では、委員長と書記長という立場で指導されていますが、当時を思い出していただけますか？

新藤Ⅱ貨物取り扱いを全廃する合理化によって、多くの組合員が「過員」として遠隔地への配置転換が強行されました。私たちは甲府駅など関係分会と共に全組合員集会や家族会と共に共闘行動をとり取り組んだんです。

1月16日から25日に「反行革・反首切り強制配転阻止をめざす国労甲府支部統一行動、共闘行動」を行いました。

この行動に各政党・民主団体・県労連に支援共闘を求め、1月24日、25日には寒風をつけて甲府駅頭の座り込みに入り、両日とも組合員・家族は午

前7時30分から午後7時まで行動しました。県労連、社会党県本部、多くの労組や関東各地の国労、社青同（社会主義青年同盟）も激励に駆け付け「反行革統一闘争」へと発展していきましました。

その結果、当局の遠隔地配転攻撃を二度にわたって延期させ、大きく修正させました。

84年1月に59・2ダイヤ改正で貨物廃止による過員状態がつかられ遠隔地強制配転攻撃が出されてから400日にわたる闘争を闘い続けたのです。

「家計簿は泣いてる」とは何か

司会 甲府駅分会の「家計簿は泣いている」という家計の実態からの要求、家族ぐるみの闘いも有名ですが、どのような闘いが行われたのでしょうか？
宮坂 当時、三池闘争から学ぶために山梨反合理化研究会を作り国労組合員をはじめ社青同盟員も含めて企業を越

えた学習会と交流を重ねていました。

甲府駅分会では、学習会・全体集会を開催し、大衆討論から大衆闘争へと発展させ、これが長期に闘い続ける組織づくりにつながりましたね。

そのなかで「家計簿は泣いている」という実態討論の改善がされ76年から始まったこの運動は、国労甲府闘争の中でずっしり重みを増していきましました。

新藤 分会の組合員一人ひとりが明細書を貼った手書きビラをつくり、生活実態を明らかにしました。組合員家族の訴えを加え、一カ月間の家計簿作成し、6年間かかって「家計簿は泣いている」と実態を訴え、この賃金闘争は反合・労災・職業病闘争に発展しました。

検証

国労甲府駅では、76年の春闘から「家計簿は泣いている」という生活実

態からの賃金要求作りに取り組んできました。なぜ、できたのか検証してみましよう。

甲府駅分会の「家計簿は泣いている」というものは、一人ひとりが生活実態から賃金要求を手書きし、明細書を貼った手製ビラのことです。

例えば、「決してゼイタクしているわけではありませんが、2万円もの赤字が出てしまいました。四苦八苦して何とか今日まで過〇してきましたが、もう限界です。黙っていられない」（年齢39歳、勤続21年、家族4人、基本給163100円、手取り149748円、9月の赤字20979円、私の82春闘要求5万円）

その横に各自の1カ月の家計簿の実態を付け加え、それに明細書を貼り、一枚の「家計簿は泣いている」が出来上がります。

ここまで6年かかりました。今では、組合員がこの「家計簿は泣いている」

◆ みんなの学習講座

家計簿		年齢	44	才年	基本給	235,100	円
国労甲府駅分会		勤続	23 <td>9月分</td> <td>手取額</td> <td>186,320 <td>円</td> </td>	9月分	手取額	186,320 <td>円</td>	円
私の九月(日)十月分の手取額を計算する		項目	金額	項目	金額	項目	金額
毎月の労働者生活に必要不可欠なものは、手取りで足りず、病院にかかった時分には、手取りで足りません。		給与	235,100	上手取	186,320	上手取	186,320
手取りは、手取りで足りません。		社会保険料	26,200	上手取	160,120	上手取	160,120
手取りは、手取りで足りません。		税金	3,900	上手取	156,220	上手取	156,220
手取りは、手取りで足りません。		住宅手当	2,000	上手取	154,220	上手取	154,220
手取りは、手取りで足りません。		通勤手当	2,000	上手取	152,220	上手取	152,220
手取りは、手取りで足りません。		家族手当	1,000	上手取	151,220	上手取	151,220
手取りは、手取りで足りません。		育児手当	1,000	上手取	150,220	上手取	150,220
手取りは、手取りで足りません。		介護手当	2,500	上手取	147,720	上手取	147,720
手取りは、手取りで足りません。		退職金	2,000	上手取	145,720	上手取	145,720
手取りは、手取りで足りません。		その他	2,000	上手取	143,720	上手取	143,720
手取りは、手取りで足りません。		合計	252,200	上手取	143,720	上手取	143,720

国労甲府駅分会の壁新聞「家計簿お立っている」

を大切にしています。最初は、バカだ、ゼイタクだと責められても、実態討論を繰り返す中で労働者の常識が変わり、ものの見方考え方が変わってきました。生活実態からの賃金要求作りが拡がり定着するにしたがつて、ゆずれない

要求となっていました。それは、労働大学発刊『春闘冊』での毎年の学習運動の積み上げから、俺たちが職場の主人公、社会の主人公という意識が芽吹き、そこで『家計簿付け』から春闘要求の理論的根拠が生み出されたと思います。そして、団結して闘う作風を作り出し、「詰所の新築」「風呂場」「公衆電話」「テレビ」などが勝ち取られました。

今日の労働運動の課題

司会 三池から学び国鉄闘争を総資本対総労働という階級闘争に発展させてきたと思いますが、今振り返って今日の労働者、労働組合に伝えたいことは何でしょうか？

新藤 II 社会を力で支配し、資本主義を維持して利益を支配者が独占する実態を実感することから労働者の闘いは始まります。私たちは三池闘争の実態を

知り、灰原茂雄さんの理論と実践に心から感激しました。したがって、組織を支配する一部の責任者や世論などではなく、職場の労働者が理論と実践を強化し、企業を越えた共闘を築かなければならないと思います。

宮坂 II そのためには、職場における仲間同士の話し合いを組織的に進め、日常的な権利闘争を強めることです。そして、職場における権利闘争とともに重要なことは学習活動です。みんなが労働者として階級的自覚を身につけた時、労働組合は強化されます。こうして強化された労働組合が結集して、階級的労働運動を強化、前進させることが出来ると信じています。

司会 II ありがとうございました。総資本対総労働としての三池闘争、その三池に学び職場抵抗闘争を闘い続けた国鉄闘争・国労甲府闘争が今日の労働運動にも多くの教訓を与えてくれます。次号は「電通闘争」を学習します。